

短歌

末武 有二 選

手に触るるまあるく開いたたんぼの絮毛つ
まめばすぐに崩れる
安永 守住 孝子
散りしきし花びら集む幼子のみみじの手から
花の雪舞う
惣領 島田 廣子
新入の子等の背負いしランドセル鎮守の杜は
若葉に萌えて
惣領 甲斐 道夫
孫が言うばあば大好きで癒やされる早いもの
で今年年中さんに
広崎 辻 恵美子
夜空ゆく宇宙ステーション光りつつ「きぼう」
は今日も地球をめぐる
木山 赤城 香織
久しぶり晴の日つづく畑の草山ほど取ったさ
て何植える
赤井 米澤 さわ
隠せない名前が物言う歳女五回り目だと鯖を
呼んだが
木山 本田 龍子
刈る草の匂う青さが列を成し風に誘われ汗こ
こち良し
馬水 倉本研一郎
血洗い息子がやると引きうけたついで此のごろ
の心の支え
江津 高田芙佐子
あい対う医師の机に額写真飛び立つ前の目白
可愛い
惣領 垣野 幸一
河川敷野鳥の巣見れば親鳥は吾れに動ぜず必
死で卵抱き
広崎 日野ヒロ子

投稿は、一人一首(句)でお願いします。

俳句

河野 全平 選

咲に咲き夫婦自慢の雪柳
子等の声響くトンネル新学期
さくら見物友と歩くもまた楽し
花冷や甘さひかえめおせんざい
黄砂吹くいつまで続く部屋干か
掛軸の絵になる鯉の滝のぼり
春雨に濡れて輝くさくらかな
夏の城石工は石のほかは見ず
若芽出ずどの木も違ふ色をして
一句鑑賞
若草を踏んで神事の弓を引く

川柳

布田川左門 選

『お題』 自由詠
木立店ランチが旨い舌鼓
へボ将棋せつちん詰の面憎さ
竹の子とワラビと山の贈り物
永き日や大工の姿空高く
『お題』 国会
国会は裏金さがしに忙しい
裏金を秘書に背負わす永田町
国会のお題忘れて振返る
延々と裏金審議涯もなし

次回のお題 「父の日」

投稿は投稿者の住所、電話番号を必ず記入し、役場
広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。



益城の文化財
町文化財保護委員会

木山

日本の社寺建築①

日本の社寺建築にかかせない宮
大工などの伝統技術は、「伝統建築
工匠の技 木造建造物を受け継ぐた
めの伝統技術」としてユネスコの
無形文化遺産に登録されています。
町でも地震後に木山神宮・津森神
宮・皆乗寺・浄信寺などがこれら
の伝統技術により復旧されました。
寺院建築は、仏教伝来とともに
中国大陸や朝鮮半島からもたらさ
れ、京都など畿内で花開き、江戸
時代には農村社会に不可欠な存在
であったと考えられています。宮
大工をはじめ職人たちは切磋琢磨
しながら技を磨き、十九世紀の初
めには社寺建築の装飾化が全国的
に広まったと言われています。
宝暦2(1752)年に再興され
たとされる木山神宮の神殿は、三
間社流造、向拝付き、正面伊達棟
千鳥破風・軒先唐破風といった社